

因島高校を支援する会

発行 因島高校を支援する会
会長 竹中啓修
事務局: 因島高校PTA
08452-4-1281
題字 竹中啓修



柏原徳彰君 キックボクシングプロに

高校時代のいじめを乗り越えて

柏原徳彰君(21歳)は、因島高校在学中、いじめにあい、つらい学校生活をおくったが、それを克服するために、空手や、キックボクシングの道場に通い、このたびキックボクシングプロに合格した。同じようにいじめにあい、悩んでいる生徒や保護者の方にも思いを伝えます。いじめから脱却し、はつらつと活躍中の柏原徳彰君を、道場(旧因島高校土生校舎格技場)に訪ねた。

空手をしようと思っただけ

高校2年9月から友達3人で、空手を習いに行った。スポーツをするのは、はじめて。火、木、土、週3回。学校すんでから因島北高校の格技場で練習した。

バカにされたので、みかえしてやりたい。いやなことでも、はつきり自分の意見が言えるように、自信をつけたいと、思った。

柏原徳彰君を空手に誘った、同級生の村上徳隆君は、

大林伸行さん(空手)と、総帥の川口晴晴さん(キックボクシング)が指導する。「おまえは弱いから、鍛えなおしてやる。」と練習つけてくれた。3年の夏休みは、本気でずーっと練習した。

プロテスト合格

岡山での試合を見ていたキックボクシングプロの、ガルーダ哲会長が、柏原君にプロテストを薦めてくれた。7月20日、岡山県備前市でのキックボクシングのプロテストに一発で合格。「高校時代つらくてたまらんかったらうに、ようがんばった。」とお母さんは、喜んでくれた。息子が成長するの、一番の親孝行だ。

来年2月14日に、東京の後楽園ホールで、プロ最初の試合がある。今後の活躍を応援したい。

空手道場の練習

午後7時から8時までは小学生や中学生の練習時間。柏原君も時々教える。そのあと、自分らの練習。昼間の仕事のあとで、しん

空手道場のようす

空手道場では、塾長の回転ひねりとかいう飛び型で、助走の力強さと空中での力の抜け切った姿勢が美しい高く華麗な跳躍だった。会場からはオオッというどよめきがおこった。

「跳躍運動」を体育会で披露

披露するために体育会の時間や放課後に何時間も練習する。最初は出来なかつた生徒も段々出来るようになった。すると欲が出てくるのだらう、より高く飛んだり、遠くへ飛んだり、バックテックやひねりを加えたり自己の個性を輝かせるために色々な工夫をする。どうして飛べなかつた生徒も開き直って着地を工夫し己が存在を顕示した。

最後に指導者浜田先生への要請

最後に指導者浜田先生への要請がにわかに沸き起った。飛んで見せろというわけである。先生は少し照れくさそうにアキレス腱を伸ばした後飛んで見せた。何

どいが、充実しているのか、目がイキイキしている。「体も精神も鍛えられる感じがします。」と笑う。ずっと、かげにかくれたような日々を送ってきたが、プロになるというニュースが新聞や市広報にも載ったし、自信がついてきた。うれしかった。と言う。

将来の夢は、

キックボクシングのチャンピオンになりたい。一度でいいから、ベルトをはめてみたい。

「空手道場」塾長の大林さん

柏原君は、最初弱かつたけど、がんばった。本人次第です。強くなりたいう子に、私たちは力を貸してあげるだけ。本人の根性があつてこそ、ここまで、来れたと思います。

卑屈になつてくる子には、

「がんばれよ。」と言いたい。練習は、明るく楽しくわき

必ずこの体育会を成功させ、

また新たな伝統が生まれるよう正々堂々と競技することを誓う」と言つた青年らしい真摯で清々しい生徒代表の顔と思ひ合わせ、不覚にも涙がこぼれた。



わがままな子も多い。「武道で礼儀を教えてください。」と親から頼まれるが、道場の中ではサポートできるが、生活の中心は、家庭ですから家庭のしつけが大事です。

因島高校の今春の卒業生は、

卒業生は、大学進学68、短大専門91、就職56、その他22と広範囲に及ぶ。「その他」の中には、進学・就職の路を選ばず、オーストラリアで、語学学校に通う松浦裕充君と村井洋平君がいる。



オーストラリア語学学校に学ぶ

因島高校の今春の卒業生は、大学進学68、短大専門91、就職56、その他22と広範囲に及ぶ。「その他」の中には、進学・就職の路を選ばず、オーストラリアで、語学学校に通う松浦裕充君と村井洋平君がいる。



松浦君(左)と村井君(右)

進学か、就職か、迷つた。クラブに明け暮れ、高校3年間、明確な目的もなく過ごした。安易に楽な授業科目を選んだつげが回つてくる。本当に自分がしたいことがわからない。納得行かぬまま、親や先生が決め進路には進みたくなかった。

因島高校の海外語学研修

の世話をしているフオーサイスさんに相談した。海外でホームステイしながら、語学を学ぶ。ワーキングホリデーとして、働きながら海外で暮らす。既製品の進路でない未知の道をすすんでみよう。

高校時代の英語は、

落第点に近い。心配だらけ。一人では心細いが、二人で行つてみるか。4月下旬、関西空港より出発。

松浦君は、

オーストラリア人の家で言葉が通じず困つた。とにかく笑顔だ。彼らは、愉快な人種だ。心で

サッカークラブ

も国際チームだ。みんな英語が初心者どうし。でも気持ちは通じる。英語習得は、いまいちのようだが、遠く離れた異国での生活で、たくましい青年に育つていく。高校生のころは、先生や親に反抗していたが、礼儀も言葉使いも身につけてきたのは、現地のやさしい人たちの影響であろうか。



好評のブースカさんのイラスト

2面にブースカさん特集
松浦君と村井君のオーストラリアでの1年間はいい経験として、今後役に立つであろう。

いじめに負けるな!!

因島高校や小学校・中学校でいじめな思ひをしてる子もいる。こづかいとられたり、弁当食べられたり、運動靴を隠されたり。便所に監禁されたり。登校拒否を訴える子もいる。がまんして親に黙つとく子もいる。いじけるな。なにくそゆうて頑張つたら、道も開ける。チャンピオンにもなれるんだ。

イラストレーター BOOSUKA ちゃんに聞く 少年時代の夢に向かって・自分に正直になれ!



因島市制50周年記念事業として、イラストレーター BOOSUKA (プースカ) が描く「あなたの中の因島」イラスト展が、11月1日から9日まで、芸予文化情報センターで開催されました。

プースカさんは、本名兼田 亮一、昭和35年三庄町に生まれ、京都精華大学美術学部卒業、昭和63年に、広告・出版関係のデザイナー・イラストレーターとしての会社を設立、活躍中です。

プースカさんに進路の相談の話を伺った高校生や先生もいました。

プースカさんは、いつの間にか、こういう仕事をしたいと考えていましたか。

絵を描くのは子供の頃から好きだった。中学校の卒業文集に「10年後の自分は商業デザイナーになりたい。」と書いた。イラストも描くし、デザインもする。そういう仕事につきたいと思いました。

小さいときからの夢が実現するまで、大変だったでしょう。

絵のことは貪欲だった。大

学はデザインの分野に進まず、自由に絵が描ける洋画を選びました。自分なりに、その方が頭を柔らかくもって、広く学んで、卒業後、デザインの分野で役に立つと考えました。デザイナー事務所に就職希望でしたが、デザインをでてないので、就職は困難でした。デザイン用語一つわからない。普通、就職面接にデザインの作品をもっていくのだが、油絵しかもっていけない。でも何とか1社入れてもらいました。

デザイン事務所はそれぞれ得意の分野があり、仕事も違うし、代理店も違う。僕は事務所を転々として色んな人と会い、色んな企業の仕事をしてきました。そして独立しました。

挫折したり、最初から無理と思つてあきらめる人が多いが、目的を遂げられた秘訣は?

最終的には、自分が正直になることです。そうすれば、自分が何をしたいかがわかってくるのでは?自分が何をしたいか考えていいたら、僕の場合、イラストだった。最後まであきらめないこと。自分に負けないことです。

3年前、因島市民会館で、個展を開きましたね。

東京や大阪で、個展を開催して因島の絵も展示していたら、先輩から「故郷の因島でやったら?」と、薦められましたが、因島でするのは恥ずかしかったです。

でも、因島に残っている同級生が中心になって、会場の手配・案内はがきの手配りなどをしてくれたおかげで、実現しました。1週間で1000人近くの来場があり、感激したと同時に手伝ってくれた同級生に感謝しています。

今回の50周年記念の企画を考えたきっかけは?

3年前の個展のお礼をしたと考えていた。

因島が、50周年を迎えるこ

とは知っていました。偶然見た因島市ホームページの「市制50周年企画アイデア募集」という記事を見つけ、今回の企画を提案しようと考えました。

しかし、そんな記念行事は、先方から依頼されて、やるものだと思ひ、「まだまだ、僕なんか早い。60周年か、70周年に因島市から声をかけてもらえるようにがんばろう。」と思ひ直しました。

ところが、その後、平成の大合併のニュースを聞き、「もう、因島60周年や70周年はないかも」と思つたので、自分としては、大好きな因島という名前があるときにやりたい。それならと、直接、市の企画課を尋ねました。

市民に思い出の写真を出してもらつて、絵にしようという企画は、すばらしいですね。

ありがとうございます。前回の個展で、自分の好きな因島の風景や人を描いたが「因島は、もつといところあるぞ。」と、多くの人に言われました。

市民のみなさんの記憶にある因島を記録にしたかった。

役所が作ったものでなくて、市民が作った50年の記録を作りたいかったです。

昔の暖かくて元気な因島が描かれていますね。

家族で、昔のアルバムを見ながら、「どの写真を出そうか」と話しているときに、「あの人だわ、なつかしい。」「昔こんなかったんやね。」「あの頃、かわいかったね。」などと、家族の団欒のきっかけになれば、うれしいですね。

プースカさんの絵は、ほのぼのしたのを感じますね。来年、再来年も、引き続き展覽会ができればいいですね。

43歳で、このようなイベントができて光栄です。

今回も、同級生が、絵の搬入や受付など、手伝ってくれた。途中、大変なこともあり、意欲を失いかけたことが何回もありましたが、励ましてくれた同級生に感謝しています。

両親も大変喜んでおられ、「小さいときから、絵が好きだったが、ここまで来れたのは、みなさんのおかげ。」と感謝されています。

木村隆司講演会開催
「ウソの時代に訣別を!!」

10月17日(金)因島高校にて、「ウソの時代に訣別を!!」と題して、テレビ番組「釣りごろつられごろ」でおなじみの元広島テレビキャスター木村隆司さんの講演が行われた。

木村さんは、講演の中で、現在の教育を取り巻く「思



いやり・やさしさ・個性」といった観点は、何が間違っていないか。ウソを含むものではないか。昔の親は、毅然とした態度で私たちに何を教えたのか。現在の子供たちと関わる方法は、案外、昔の人の生き方の中にヒントがあるのでは?。「人間の強さ・美しさ・品位とはなにか」について熱弁され、聴衆の教員や保護者や市民は「教師として親としての生き方」を問われる形で、厳しい世相を生き抜く知恵を授かったようでした。

本年度の大きな目標は、①全国高校総体(インターハイ)に出場、②国民体育大会へ出場でした。

6月の県総体で、個人1位通過で、インターハイ出場を決めた。8月のインターハイに向け、決勝進出を目標に練習に取り組んだが、決勝進出はあと一歩で、果たせなかった。

次に7月の国体県予選、8月の中国予選を経て、広島県少年男子チームとして国体出場を決めた。今度こそインターハイの雪辱を晴らすべく決勝へ進むことを最低限の目標にした。

10月末 静岡で国民体育大会。広島県チームとして

田頭 剛君

保護者懇談会が行われ、学校に対する要望が出された。学校は真摯に受け止め、改善すべきはしていく方向で取り組みたいとのことだ。

11月4・5日因島高校では保護者懇談会が行われ、学校の進路への意志を聞き、保護者の許可をいただいて決定している。生徒まかせにせず家庭で充分話し合っしてほしい。

○講師の先生が多いと聞きます。講師はパート感覚なのか、授業中騒がしいという話も聞きます。

ほとんどの教科に講師の先生がいます。県立高校の場合当然ですが、総合学科の場合は他よりも講師が多い。経験豊かな講師の先生にお願ひしていますが、なかなか生徒把握が難しいということがあり、周辺の教科で補いながら進めていきたい。

保護者懇談会を行う

因島ロータリークラブ
田熊小学校訪問

因島ロータリークラブ(補見芳教団会長)は、11月20日、田熊小学校(岩木久満校長)を訪問し、教育の現状を会員が肌で感しました。

石田栄養士から給食の説明を聞き、子供のころを思い出しながら感慨深げに試食した。その後、岩木校長から、学校の実情、俳句指導や30人31脚競走出場の様子など、伺った。

宮地康福教育長からは学

因島せとつちライオンズクラブ
高校生を交通指導

因島せとつちライオンズクラブ(大西謙治郎会長)は、青少年の健全育成に力を入れており、11月21日、午後3時より、因島高校生の通学路にて下校時の交通指導を行った。全員が交通安全のたすきをかけ、生徒に声をかけたり、自転車マ

田熊小学校訪問

校でできない読や教育に地域のみなさんの力をいただき感謝している旨のお礼がありました。

編集後記

入ると、生き生きとした人間に変身した。彼に自信をもたせた道場の先生方のおかげだ。

▼中学校、高校でも、依然としていじめがあり、親子とも悩み、転校した子もいるという。柏原君の元気、努力をみながら、くじけず立ち向かってほしい。

▼子供のころの夢を実現できたプースカさん。自分に正直になり、あきらめるな。と言う。来年も展覧会をしてもらって、因島市民に活力をいただきたいものだ。